

小学校 4年

地域おたすけ隊 ヨレンジャー

～地域で困っていることを見つけて自分たちにできることをしよう～

高槻市立北大冠小学校

教科

総合的な学習の時間

単元名

地域おたすけ隊ヨレンジャー

～地域で困っていることを見つけて自分たちにできることをしよう～

単元でつきたい力

(教科等でつきたい力)

- ・地域の課題や困りごとにはどのようなものがあるか理解し、解決するための情報を見つける。
- ・地域の課題や困りごとについて必要な情報を選択し、自分ができることを考え表現することができる。

(学校図書館等の活用でつきたい力)

- ・地域の事象に関する課題を設定する。
- ・情報を収集する複数の方法を知る。
- ・自分の考えや意見を壁新聞やポスター等で相手を意識して表現する。
- ・情報活用を振り返り、改善点を見いだせる。

本単元で育む主な情報活用能力

A-STEP 2, B-STEP 2
D-STEP 2, E-STEP 2

該当番号の詳細内容は
「大阪府情報活用能力
ステップシート」から確認できます。



単元における学習の展開 (全 70 時間) (学校図書館等を活用した時間に☆印)

第1次 (13 時間) 困っていることを見つけよう	○自分たちが暮らすこの地域にできることを考える。
第2次 (16 時間) 「ゴミプロジェクト」	○ポイ捨てなどのごみを減らすためにできることを考える。
第3次 (37 時間) 身の周りのいろいろなところで 困っている人を見つけよう	○いろいろなところで困っている人を見つける。 ・自分たちの知らないところで些細なことでも困っている人がいることに気づく。 ・本やインターネットを通じて、それぞれが困っていることや困りごとを解決するための工夫について知る。(☆) ○体験 (アイマスク、高齢者、妊婦、車いすなど) を通じて自分ごとにする。 ○ゲストティーチャーの話を聞き、どのように関われば良いかを知る。 ○自分たちが学んだことや体験したことを他学年やお家の人、地域の人にも知ってもらったり体験してもらったりできるようなワークショップを考える。 ・チームに分かれ、企画書を作る。(☆) (本時) ○北冠ゆうあいサポート体験教室～Be a hero～を開く。 ・自分たちの知識や体験したことを他学年やお家の人、地域の人に体験してもらう。
第4次 (4 時間) 誰もが暮らしやすい町にするために	○北冠ゆうあいサポート体験教室を終えて、これからできることは何か考える。

本時のねらい

- ・調べたことや体験して分かったことを用いて、体験教室の企画案を作ろう。

本時の展開

学習の流れ	主な学習活動と内容	学校図書館活用のポイント 及び指導上の留意点
導入 (8 分)	1. めあてを確認する。 北冠ゆうあいサポート体験教室の企画案を作ろう。 ・何のために体験教室を開くのかを理解する。 ・企画書の書き方を理解する。	・自分たちが学んだことや体験したことを生かした体験教室にすることをおさえる。 ・当事者の困り感が伝わる内容にする。
展開 (25 分)	2. 図書資料を活用して、チームごとに企画案を作る。 妊婦、アイマスク体験、点字、イヤーマフ、高齢者などのチームに分かれ、それぞれのチームでクイズ、スライド、体験等の役割に分かれる。 <企画案の内容> ・伝えたいこと ・方法 ・内容 ・会場図	・車いす、点字、手話、高齢者、バリアフリー、ユニバーサルデザインなど福祉関係の図書資料を用意する。
まとめ (12 分)	3. 作った企画案を共有し、さらによくする。 企画案を作る中で困っていること・わかったことを確認する。	

授業者の声～参考にしてほしいポイント～

- ・図書資料を読むことで実際の体験を振り返り、学んだことを整理できた。
- ・体験や図書資料を通じて得た知識を使って体験教室の企画書を作成することで、さらに理解が深まり、単なる情報としての知識ではなく、生きて働く知識として定着しやすくなった。
- ・「他学年やお家の人、地域の人に体験教室を開く」というゴールを子どもたち自身が設定することで、主体的に活動することができた。



チームで企画書を作成している様子